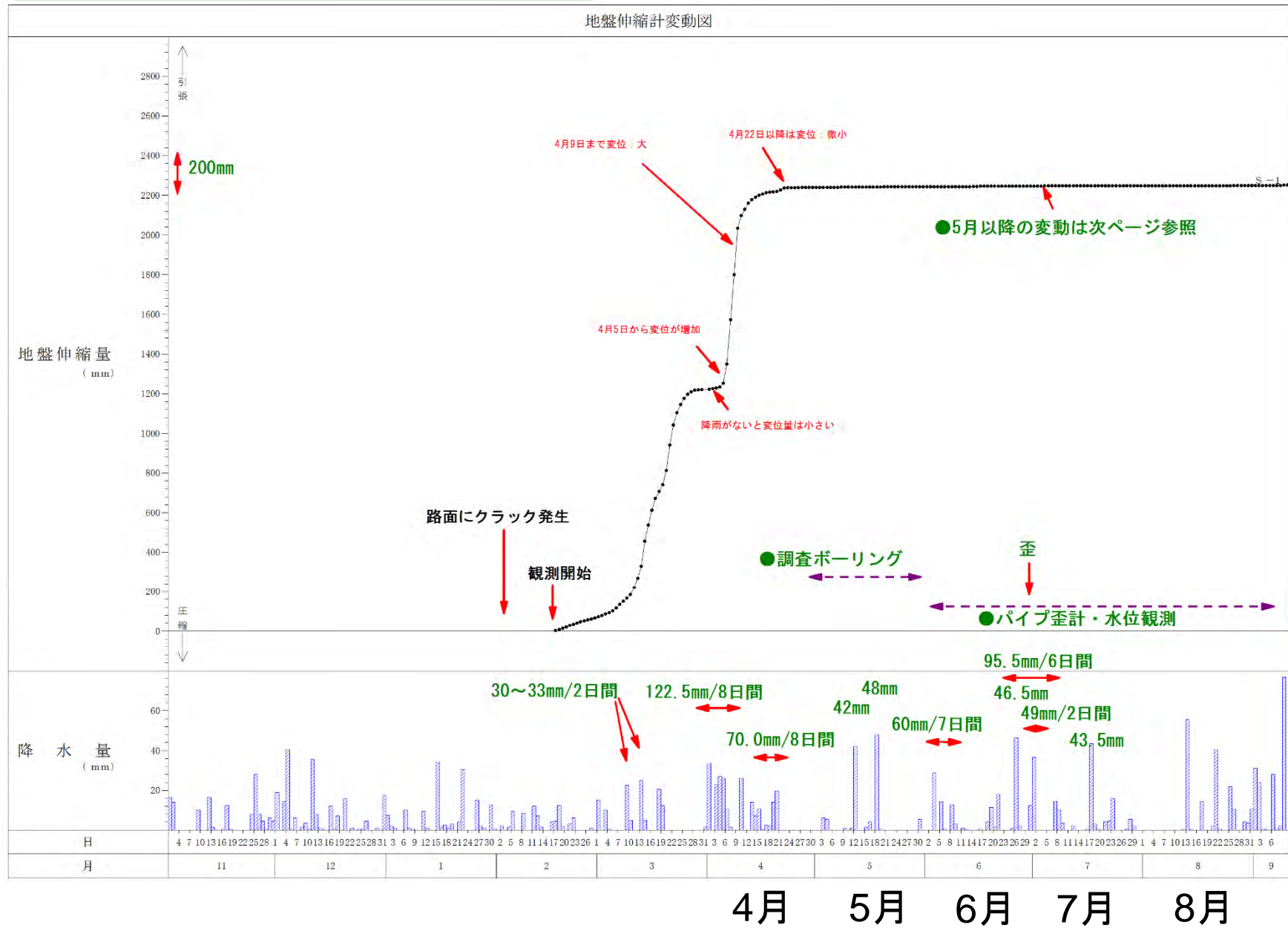
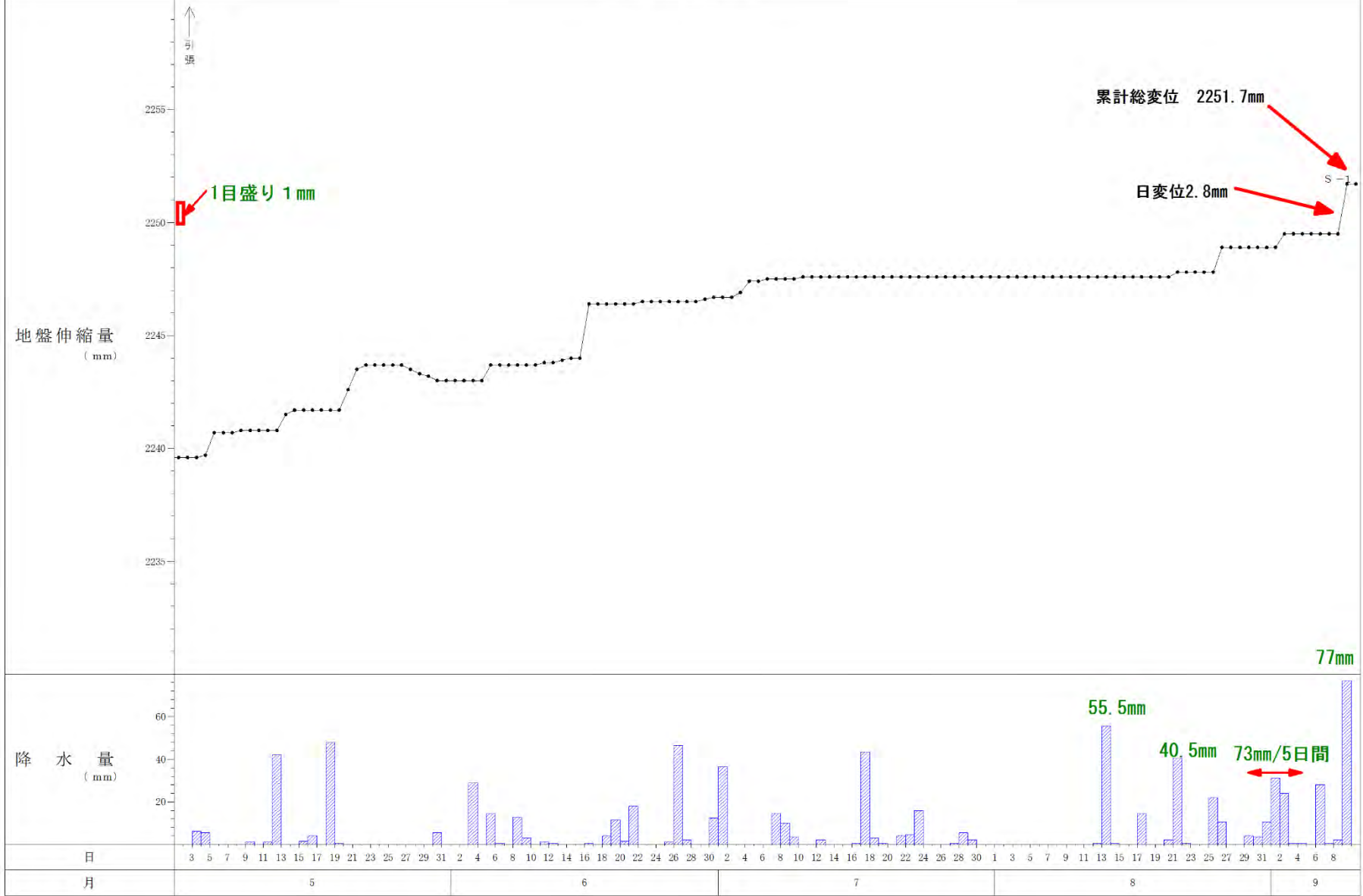


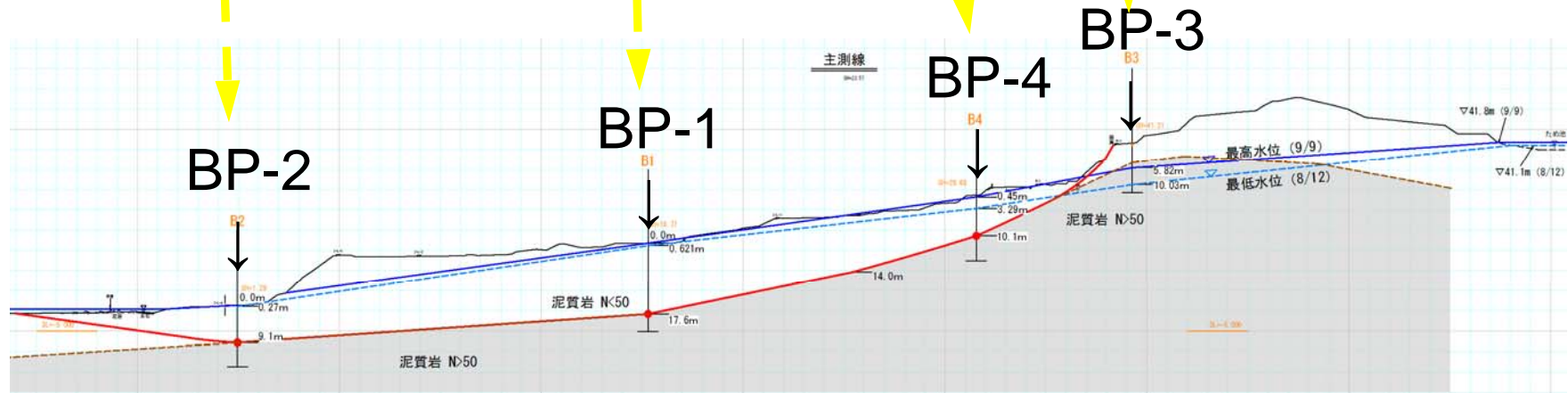
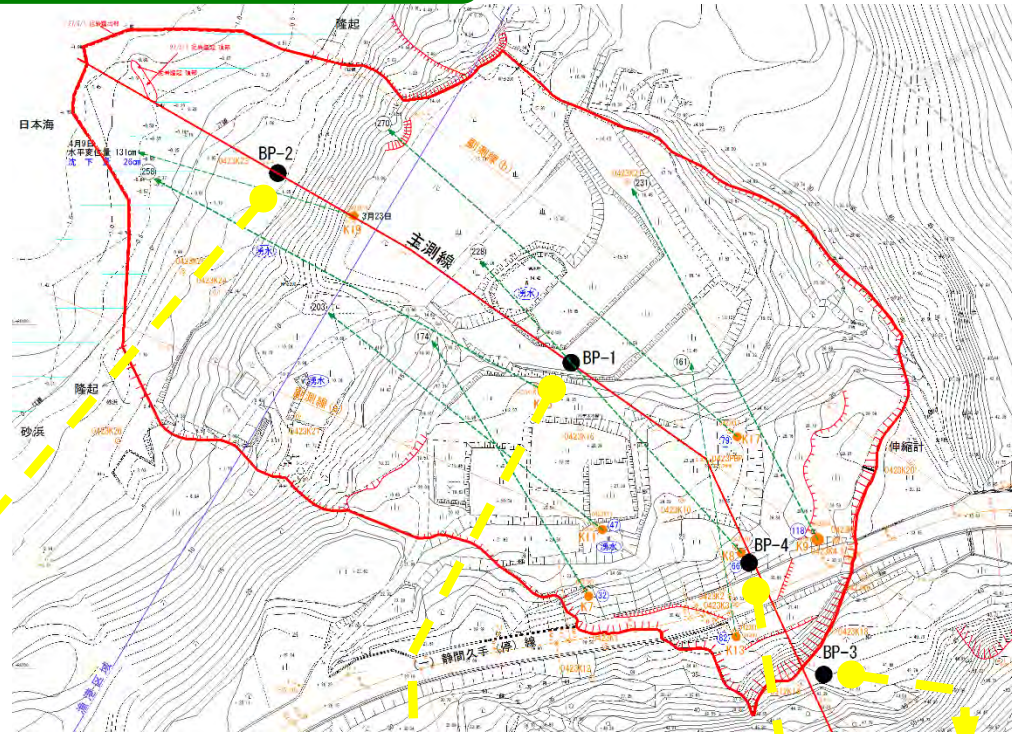
②6月以降の滑動状況

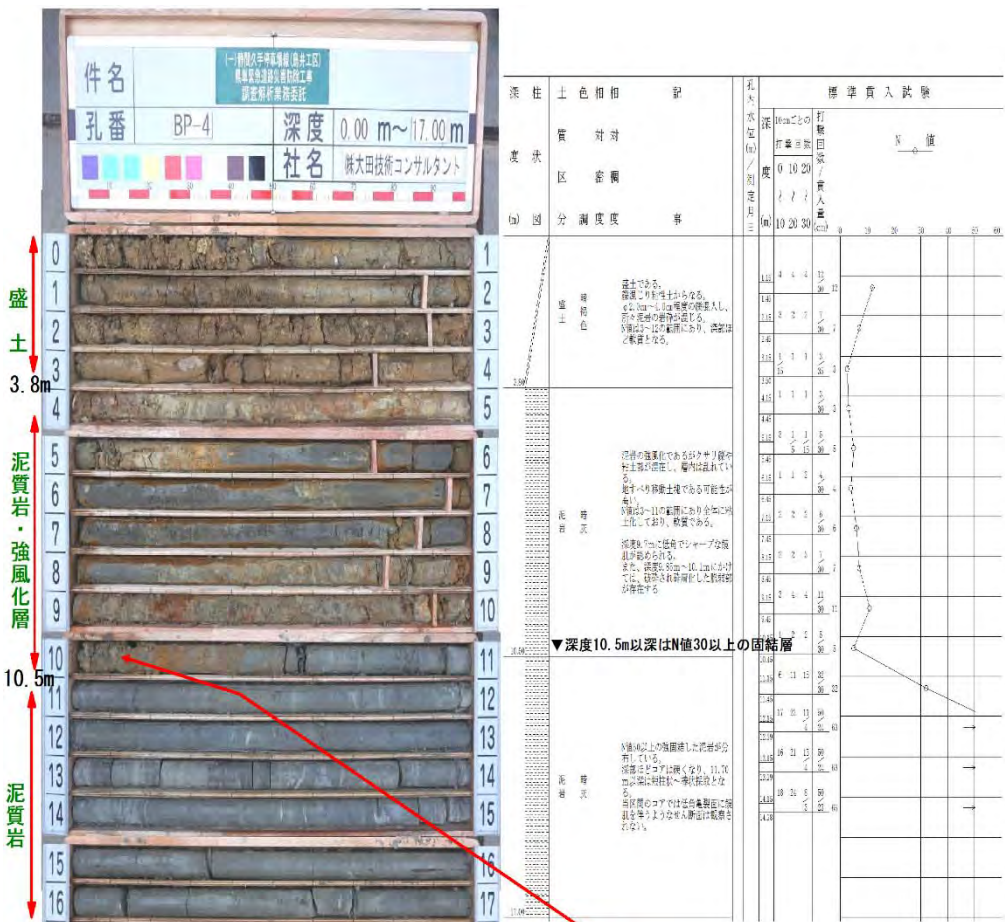
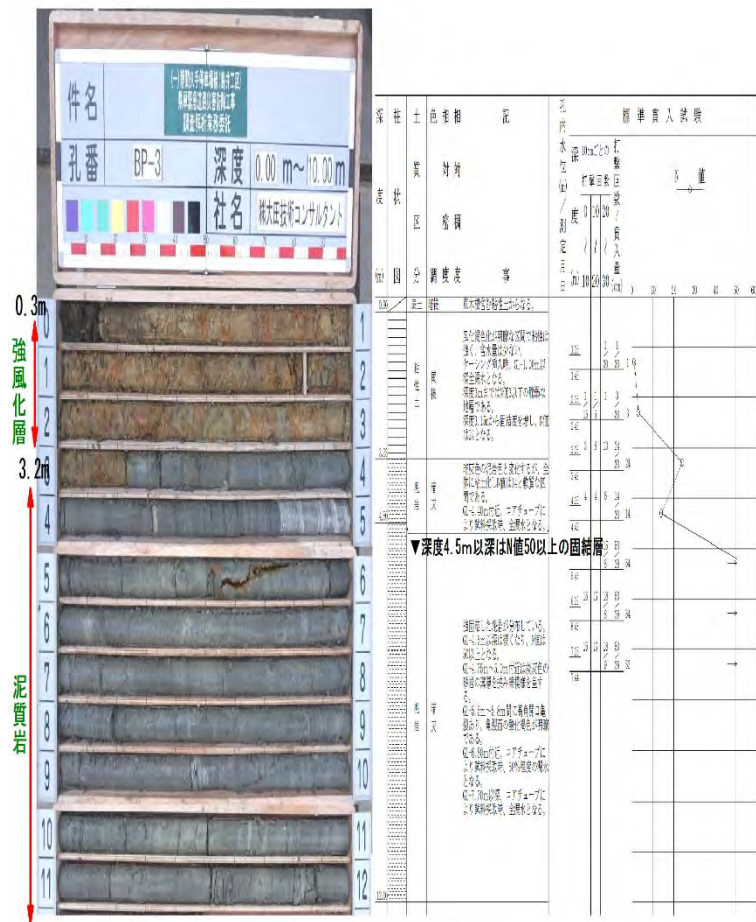


地盤伸縮計変動図



③ボーリング調査の結果

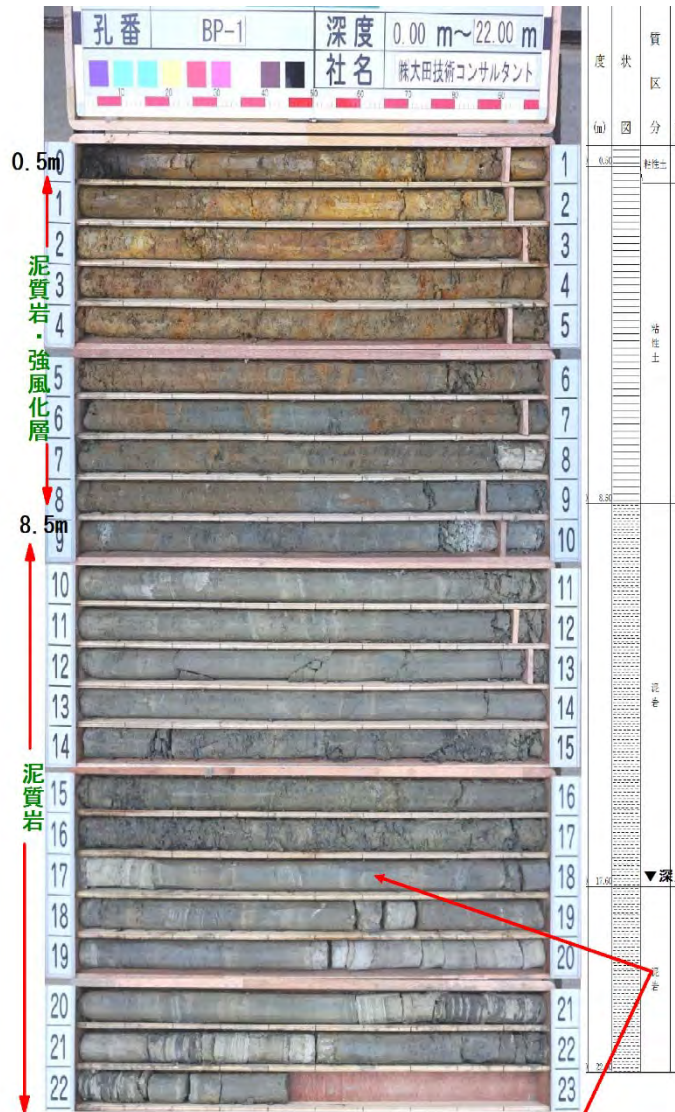




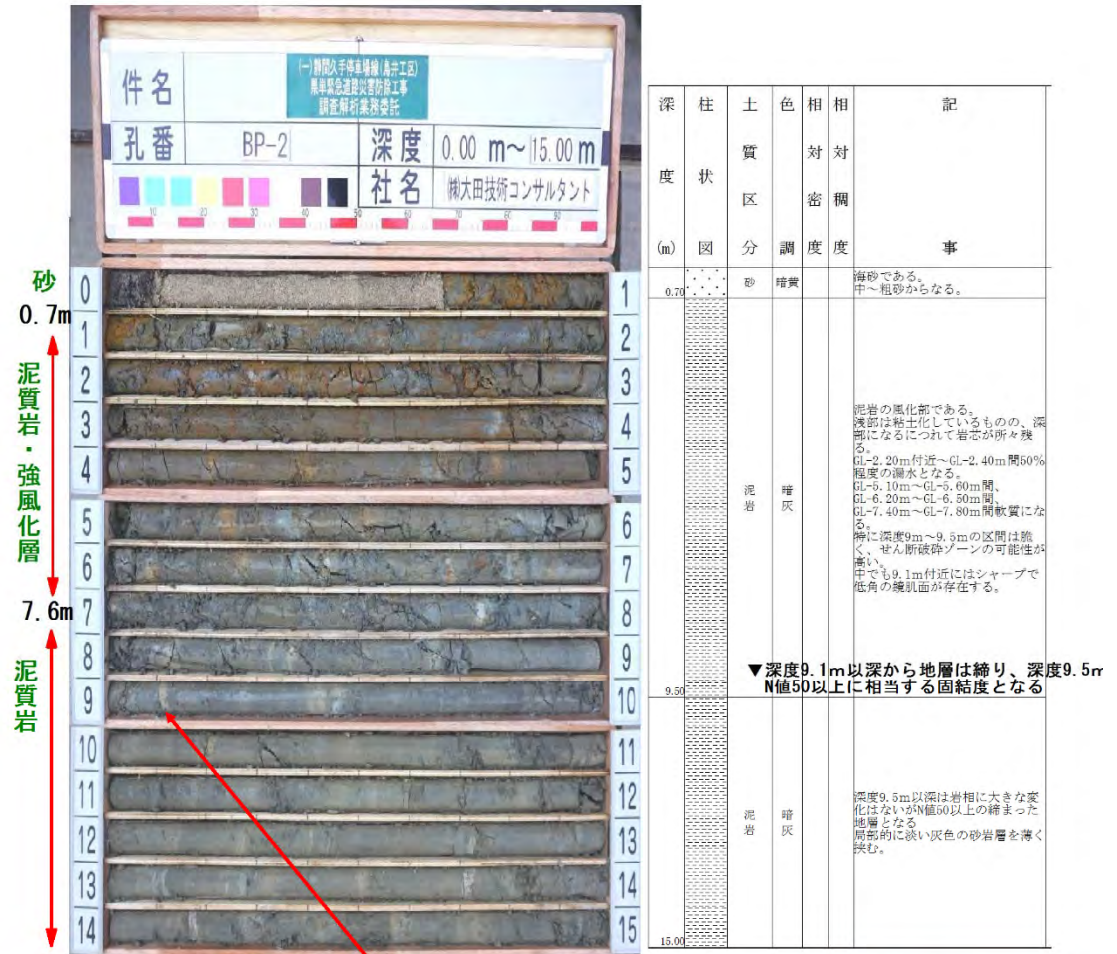
※本孔のコアには、鏡肌などの明瞭なせん断面はない



●深度10.1m 鏡肌は不明瞭だが破碎している

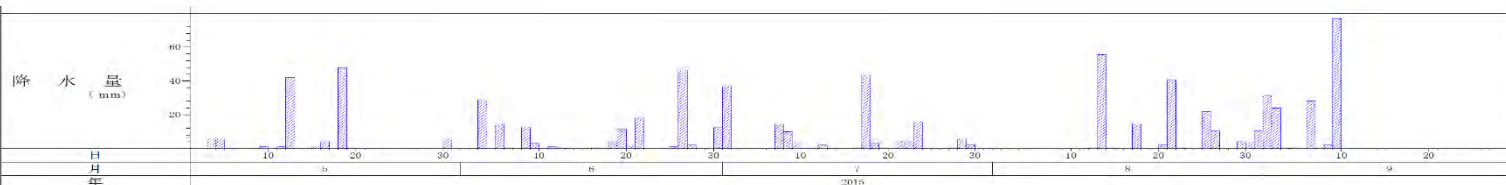
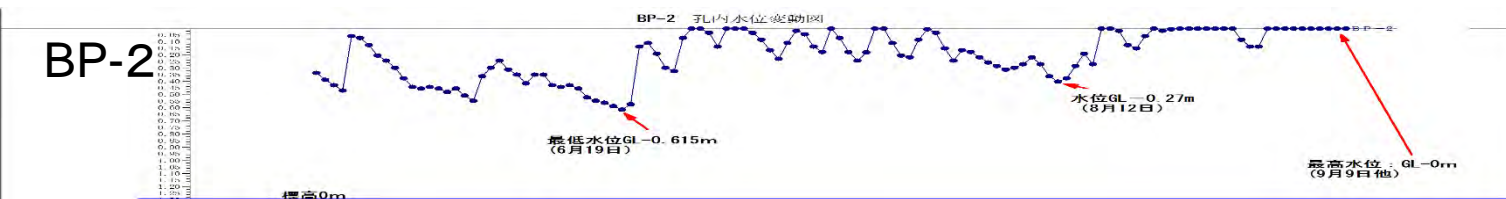
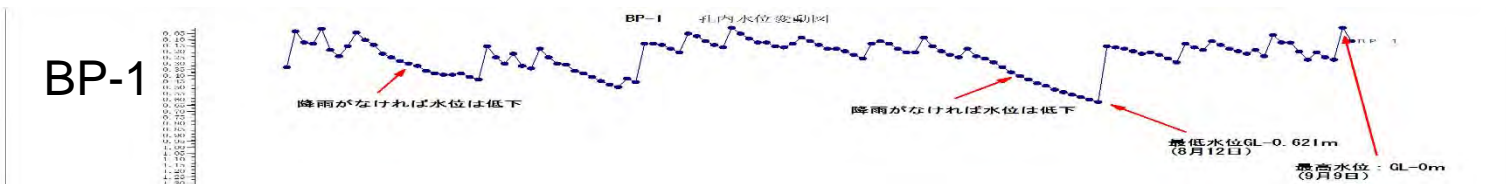
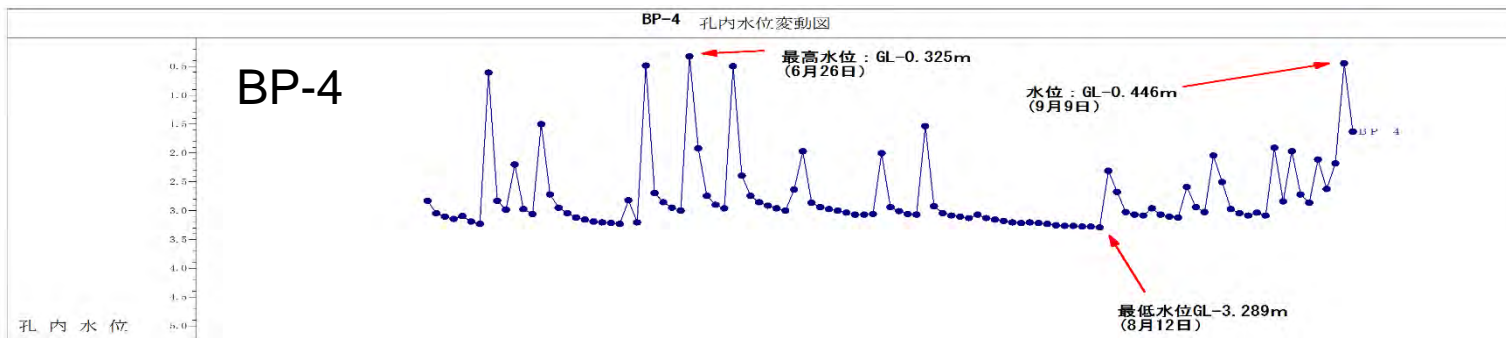
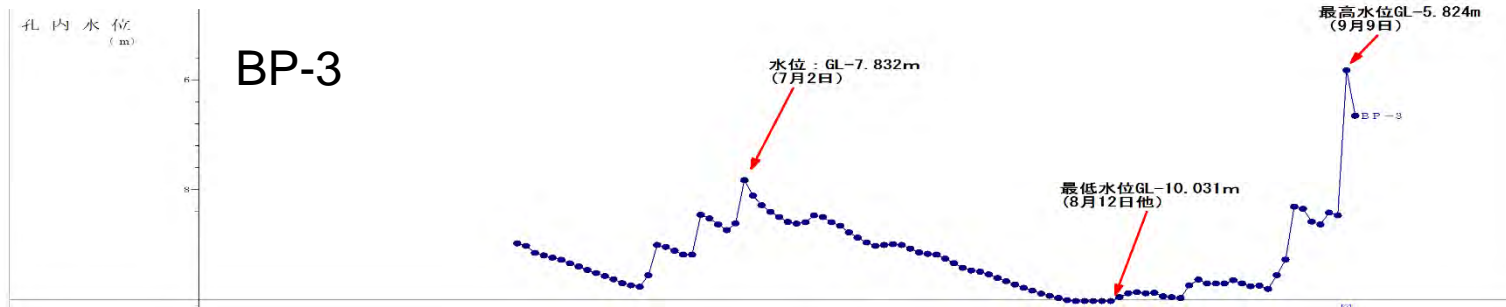


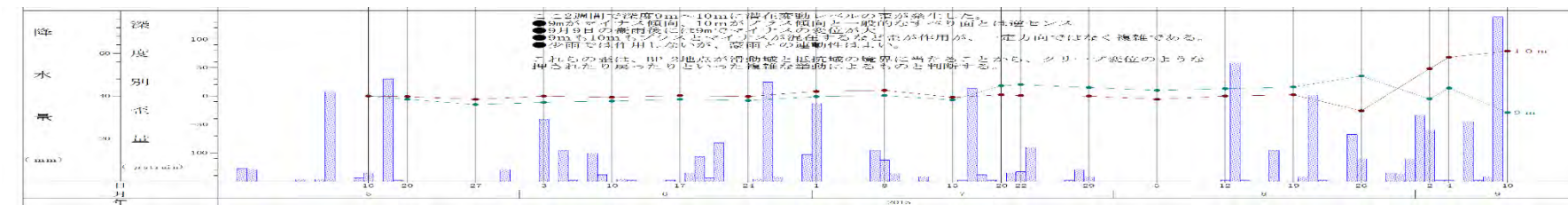
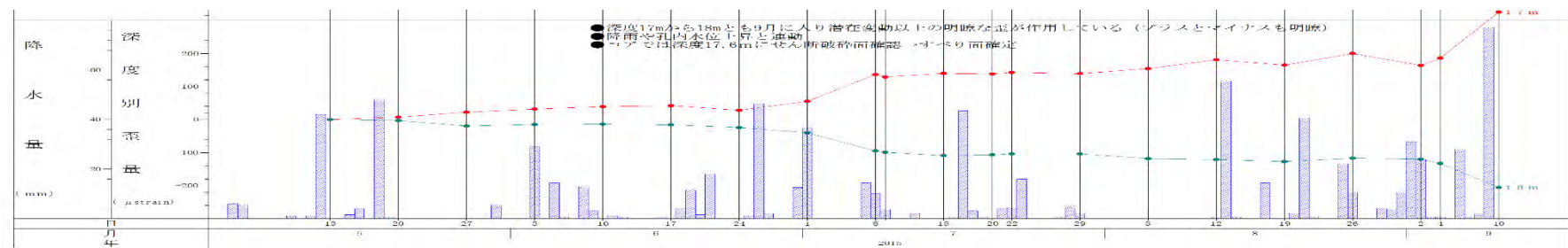
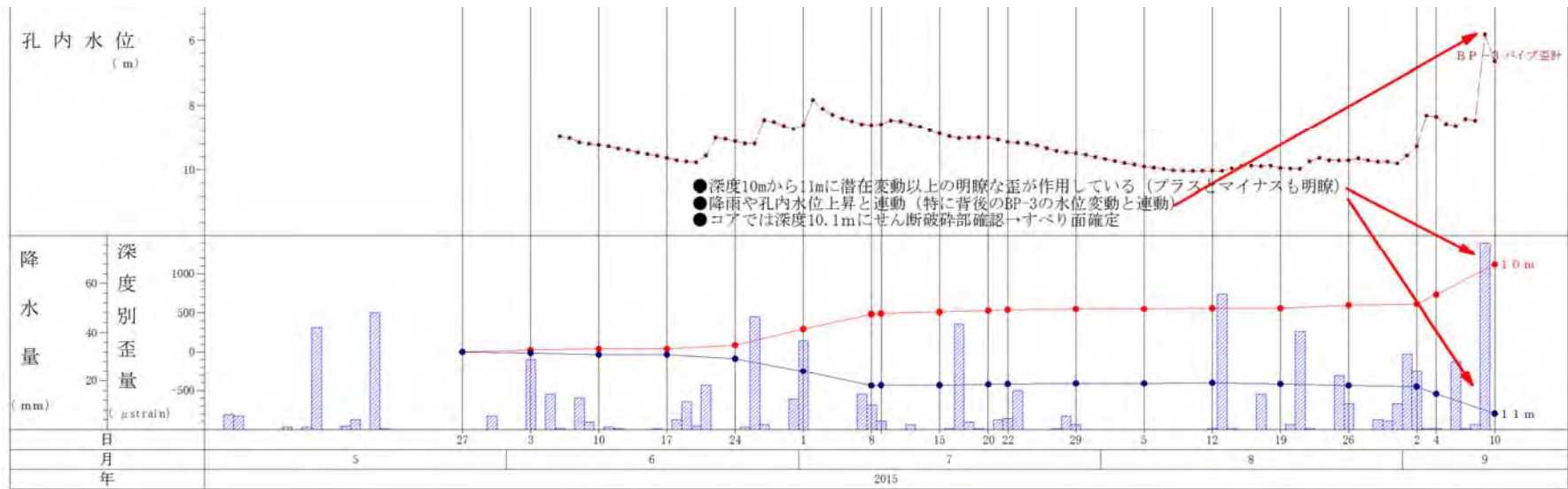
●深度 17.6m

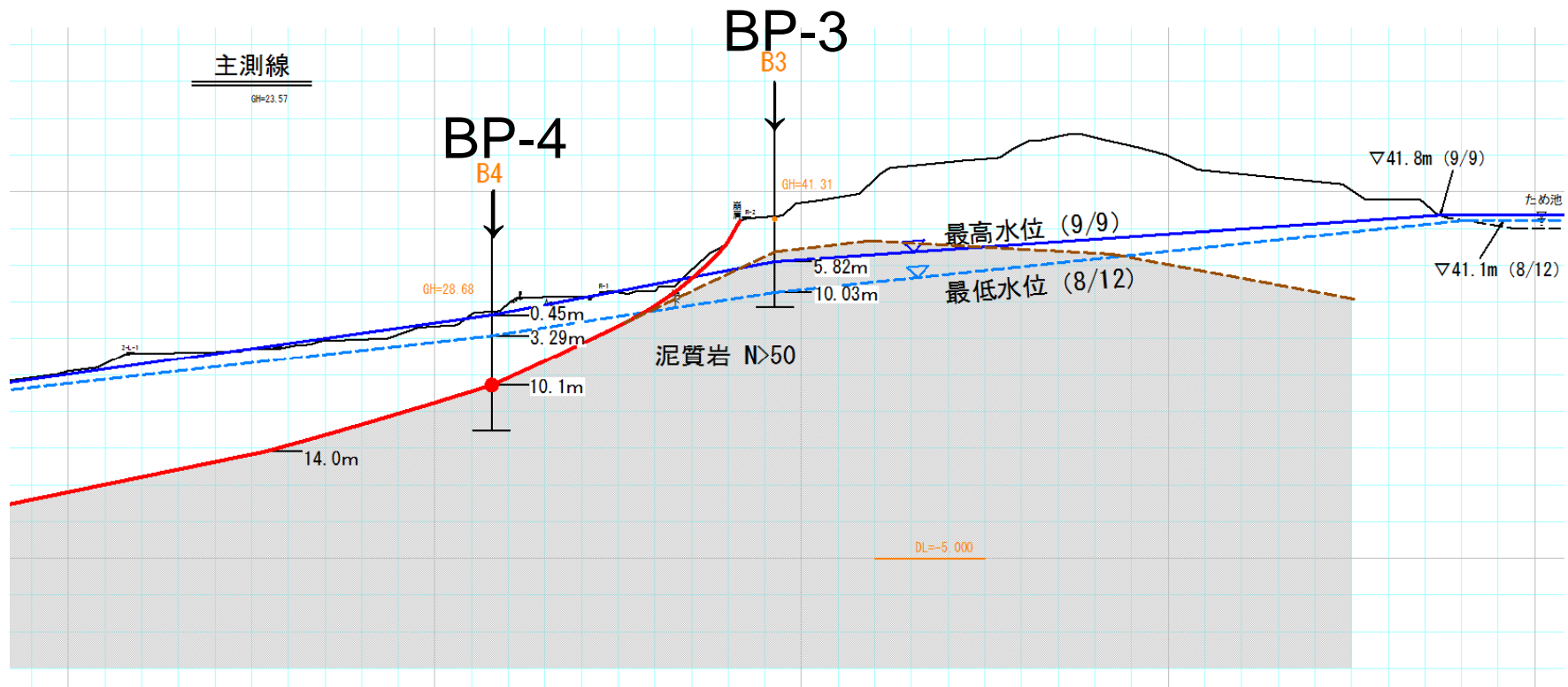
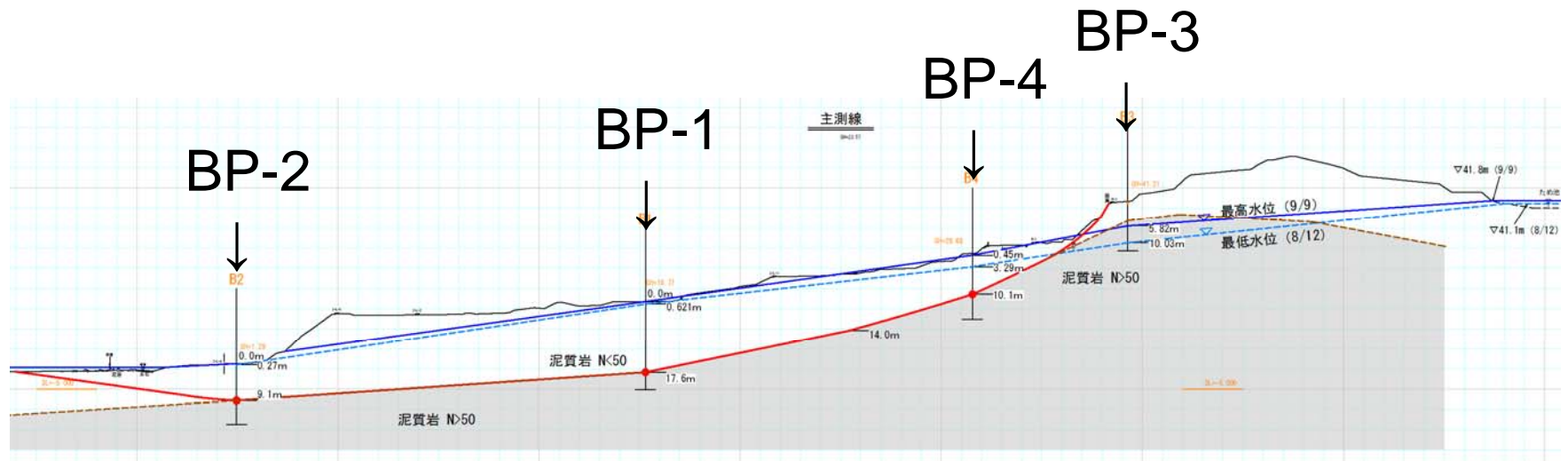


●深度 9.1m 鏡肌明瞭

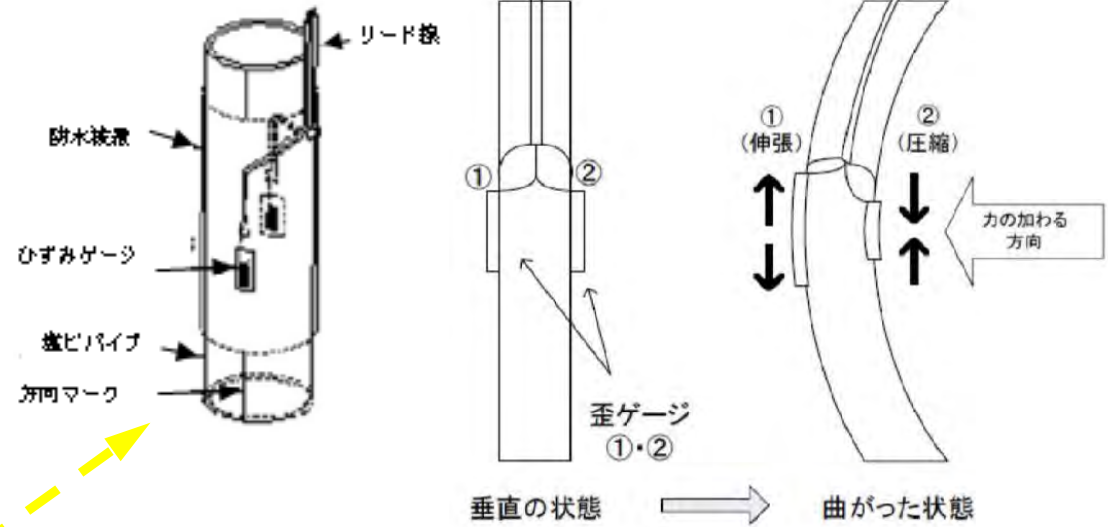
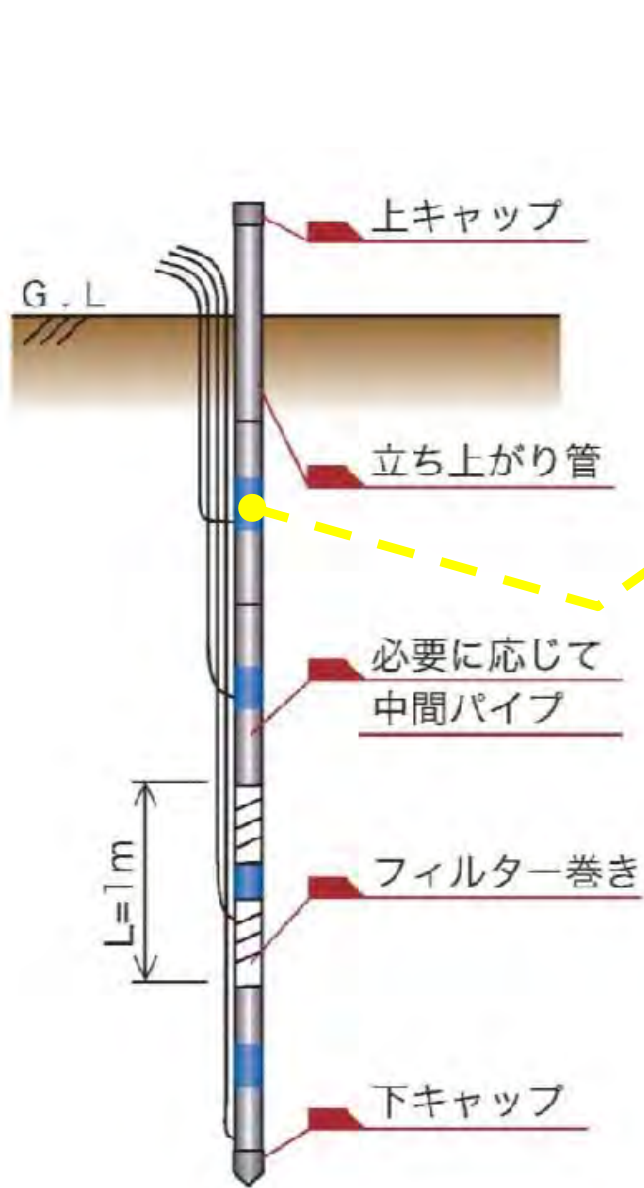
◆ 孔内水位の変化



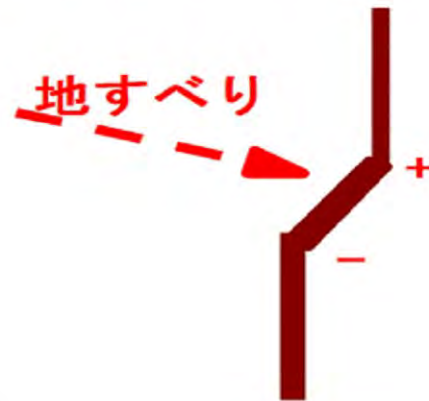




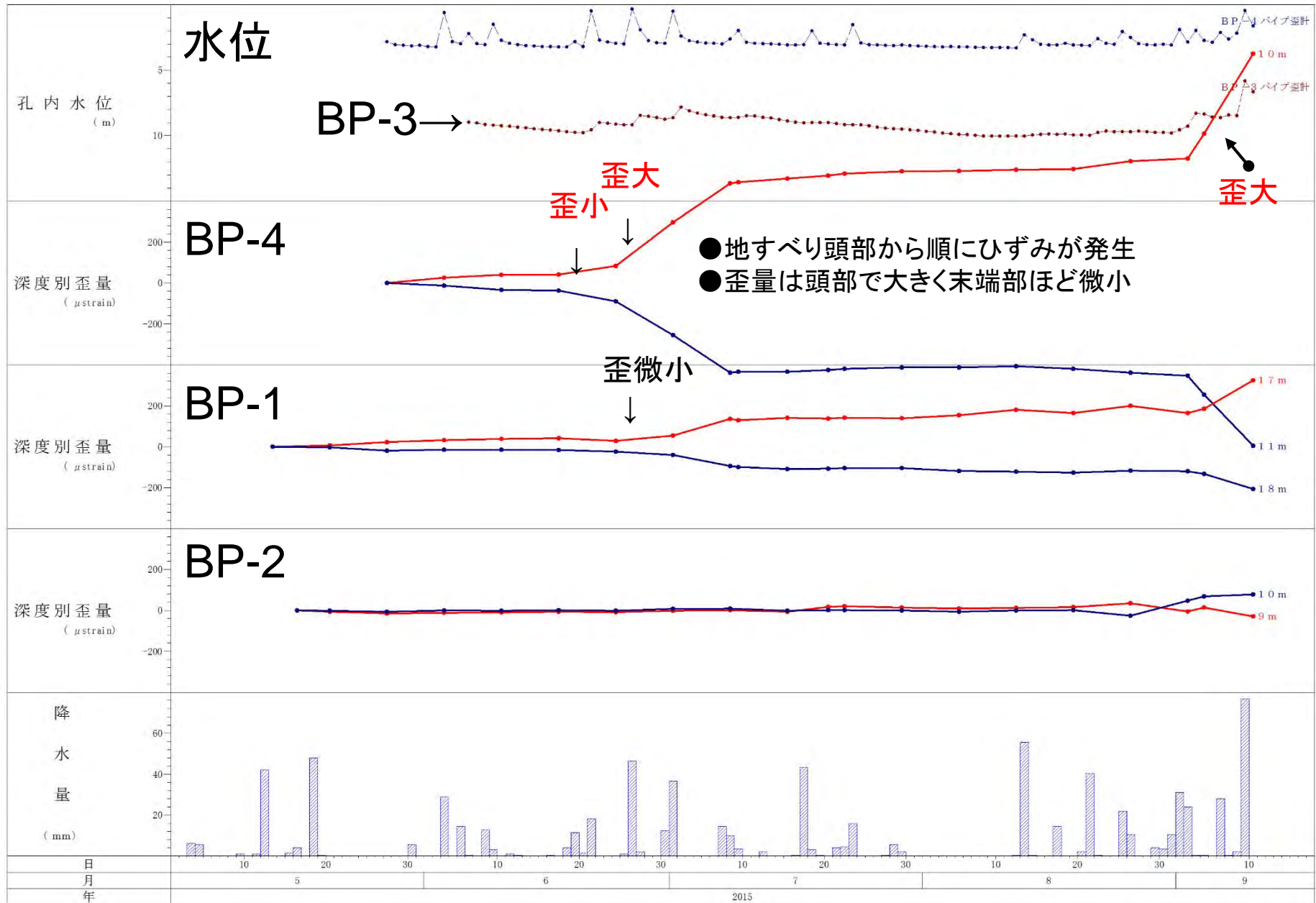
◆参考資料:パイプ歪計



●歪の+-について



④パイプ歪計観測結果



<地すべり発生のメカニズムについて>

(1) 素因

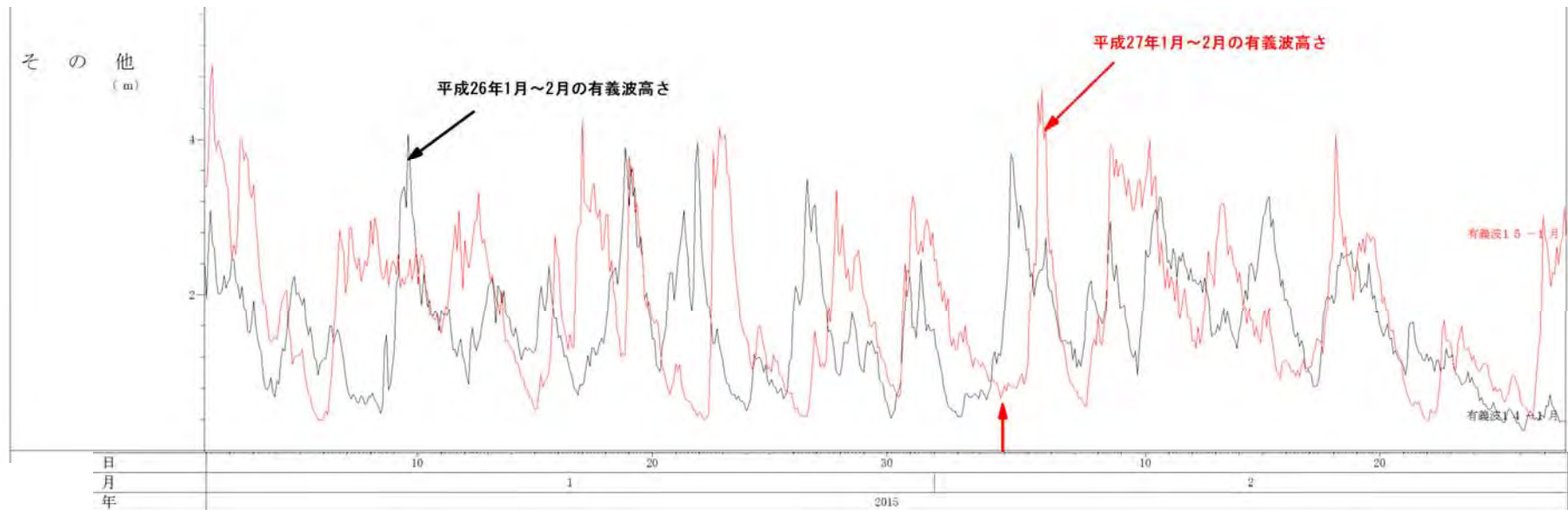
- 泥質岩の緩く海側に傾斜して幾層にも堆積している。
- 泥質岩の上部層(N<50)と下部層(N>50)の明瞭な固結度の違い。
- 泥質岩はスレーキング劣化しやすく、下部に向け風化が進んでいた。
- BP-3地点付近の背斜軸により、地すべり頭部は規制させている。

(2) 誘因

- 当該背後地山は保水力、集水力が高い。
- BP-3の水位観測でも、降雨後に水位が4m近く上昇し、池の水位とも連動。
- 水位の上昇に伴って、地すべり頭部付近の地中に歪が発生している。
- 降雨後に地すべり頭部の地下水が上昇し、背後地山から過剰な間隙水圧作用。
- 泥岩軟質部と固結部の境界で強度低下が繰り返され、滑動に至ったと考える。

※2月～4月にかけて変位が、頭部から末端部にむけて順位に顕在化していったこと、調査孔の歪が、頭部から徐々に発生していることも、そのことを示唆していると考ええる。

<波浪による砂浜浸食の影響について>



◆頭部排土+横ボーリング孔(水抜き)案

- 課題→ ●道路縦断勾配
●末端部の波浪侵食の継続
●多量な排土量1万~1.5万 m^3



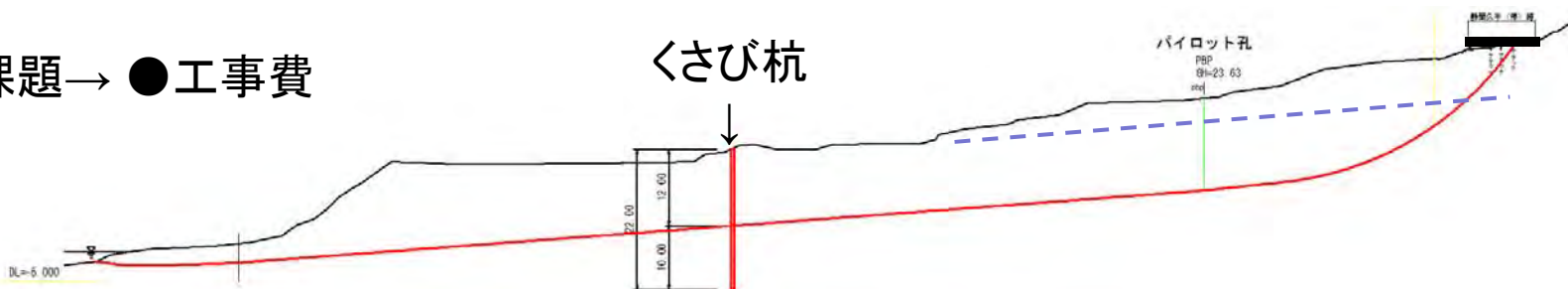
◆山側道路シフト案

- 課題→ ●多量な排土量2.5万~3.5万 m^3
●法面構造物との併用
●用地



◆抑止杭+横ボーリング孔(水抜き)案

- 課題→ ●工事費



ご清聴ありがとうございました